

流動性リスク：管理と監督上の課題

2008年2月21日
バーゼル銀行監督委員会

バーゼル銀行監督委員会（以下、「バーゼル委」という。）は本日、「流動性リスク：管理と監督上の課題」と題する文書を公表した。

バーゼル委の流動性作業部会は、2006年末に本テーマへの取組みを開始し、メンバー国における流動性リスクの監督実務を調査してきた。2007年央に始まった金融市場の混乱を受けて流動性作業部会の任務は拡大され、これら一連の出来事が金融機関の流動性リスクにどのような影響を与えたかを評価する作業が加えられた。

バーゼル委は、流動性作業部会の行った作業の重要性に鑑み、主要な評価結果を公表することとした。本文書では、金融市場におけるどのような変化が流動性リスク管理に影響を及ぼしているかを指摘した後、各国の流動性監督の枠組みとその構成要素について論じ、さらに、今回のストレス事象から得られた当面の教訓について概説している。

バーゼル委の議長を務めるウェリンク・オランダ中央銀行総裁は、「昨夏の極端な流動性状況と、その結果として今なお続いている難局は、銀行部門にとって市場流動性が決定的に重要であることを如実に物語っている。これら一連の出来事は、市場流動性と資金流動性が連関していること、資金流動性リスクと信用リスクが相互に影響し合うこと、そして流動性は銀行部門の健全性における決定的要因であることを強く印象付けた」と述べた。

流動性作業部会は現在、バーゼル委が2000年に公表した「銀行における流動性管理のためのサウンド・プラクティス」の抜本的な見直しを行っている。バーゼル委は、民間部門及び公的部門の双方において最近行われた、あるいは現在行われている流動性リスクに関する作業を活用しつつ、上記のサウンド・プラクティスを改良し、銀行による流動性リスク管理の強化と各国の監督実務の改善につなげることを目指している。バーゼル委は、今夏にサウンド・プラクティスの改訂版を公表し、パブリック・コメントを募集する予定である。